

17世紀日本における健康観の変容

国文学研究資料館 入口敦志

17世紀日本は、徳川幕府の治世になるとともに、中世とは異なる思想が芽生えてきた時代である。そのなかで、健康観についても大きな変容があった。17世紀初頭には自然と一体となることが健康の秘訣とされていたが、17世紀末には個人の健康は社会を維持するための守るべき道徳として位置付けられるようになる。そこには、17世紀に定着する朱子学の影響が色濃くみられると考えられる。以上のことを、『延寿撮要』と『養生訓』という二つの養生書の比較から明らかにしていく。